

# クリンテートFX-UV (0.15厚mm) の効果確認試験



JAしずない

小池 隆光



試験ハウス



試験ハウス内

## 試験目的

紫外線カットフィルム(クリンテートFX-UV)の効果確認

## 試験作物 及び品種

ミニトマト

## 試験資材 及び数量(規格)

クリンテートFX-UV(0.15mm×960cm×52m)

## 慣行資材

クリンテートFX、テキナシ

## 栽培方法

**定植日**  
慣行区:3月上旬  
試験区:3月上旬

**収穫日**  
慣行区:5月上旬~  
試験区:5月上旬~

**【栽植密度】**  
3ベット 6列  
株間:40~50cm

## 資材使用期間

4月中旬~11月下旬

## 試験区面積

325㎡

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と変わらない。

展張作業時も差を感じることは無かった。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

試験区は初期生育が早かった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

**【優位点】** 紫外線カットにより、害虫忌避効果がある。

**【問題点】** マルハナバチのローテーション使用に注意する必要がある。(紫外線カットフィルムと一般フィルムを混用しない)、ミツバチは飛ばなくなってしまう。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

長年使用すると紫外線カット効果が弱まると聞いたので、継続して効果を観察していきたい。

### (5)促成・抑制効果について

試験区の方が初期生育が早かった。

### (6)雑草・病害虫の発生について

慣行品と変わらない。

今年の天候では、病害虫の発生が少なく、違いがわからなかった。また、紫外線カットフィルムは、土壌病害の抑制効果もあると聞いたが、はっきりとはわからなかった。

## モニター感想

紫外線カットフィルムを使用することで害虫抑制効果、ヤケや裂果の減少が期待できると聞いて導入した。

今年の天候では、高温の日数や害虫発生が少なかつたため大きな差を感じることは出来なかったが、マルハナバチを問題なく使用できたという点では収穫があった。

試験区の方が生育初期段階で成長が早かった印象がある。

## JA担当者の感想(資材課 原課長)

当農協は、ミニトマトの産地であるがミニトマト生産者で紫外線カットフィルムを使用している生産者はいなかった。

マルハナバチが飛ばなくなると聞いていたが、今回の試験で問題なく飛ぶことがわかった。

ただし、ローテーション使用する場合は、紫外線カットフィルムで統一する必要がある、通常フィルムと混用しないように注意喚起していきたい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。